

入門マクロ経済学Ⅰ

科目ナンバリング ECT-103
選択必修 2単位

鈴木 拓

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、高校レベルのマクロ経済に関する基礎知識習得を目指し、基本的なキーワードの解説を行います。

元々経済は「風が吹けば桶屋が儲かる」の世界であり、現代経済は更に複雑化・多様化していることから、それを読み解くのに必要な基礎知識も比例的に増えています。したがって板書もその分多くなるので学生諸君には少々厳しく感じられるかもしれません。本講座の受講に当たっては、集中力、そして「なぜそうなるのか」「なぜそう考えるのか」といった「なぜ」を追求する姿勢が重要です。本講義の受講を通じ、日常の経済現象に目を向ける時に、「なぜ」を考える習慣を身に付けてほしいと思います。

2. 授業の到達目標

本講座では、以下2点の達成を目標とします。

1. 経済関連のニュースや新聞記事の基本的な内容についての基礎知識を習得し、人に説明できるようにすること。
2. 基礎レベルの経済理論に基づき、様々な経済現象の背後にあるメカニズム(なぜそういう現象が起こるのか?)を読み解くことが出来るようにすること。

3. 成績評価の方法および基準

授業期間中に行うテスト(100%)

4. 教科書・参考文献

教科書

春期は特になし。

5. 準備学修の内容

高校の政治経済の教科書を再読し、疑問点を簡条書きにしておくことを推奨します。

また授業終了後翌週までに、下記の通り授業中の板書を基に自分自身の力でノートを編集して下さい。

6. その他履修上の注意事項

授業の妨げにならないよう、授業中は静粛にして下さい。このルールが守れない場合には、その場で本講義の不合格を言い渡すこともあります。もう高校生ではありませんので、大人に相応しいマナーを心がけて下さい。

また、板書はあくまでも皆さんのノート作成の取っ掛かりにすぎません。大学での勉強は、授業が終わってから授業中に書き留めたことや調べたことを基に自分でノートをまとめるのが本番です。知っている情報は省く等して板書の内容を取捨選択し、更にわからなかったところは自分で調べて付け足すなどの工夫を心がけてください。(板書が多いのは手を動かして学習効果を上げるという目的の他、受講生の皆さんの聞き漏らしを防ぐためと、ノートのまとめ方がわからない人でも板書を丸写しするだけである程度ノートが完成するよう配慮しているためでもあります。)

7. 授業内容

- | | |
|--------|-------------------|
| 【第1回】 | 授業案内・イントロダクション |
| 【第2回】 | 資本主義社会の発展 |
| 【第3回】 | 社会主義経済の盛衰 |
| 【第4回】 | 経済主体 |
| 【第5回】 | 市場経済の仕組み |
| 【第6回】 | 財政 |
| 【第7回】 | 金融 |
| 【第8回】 | インフレとデフレ |
| 【第9回】 | 国民所得の指標 |
| 【第10回】 | 経済成長と産業構造の変化 |
| 【第11回】 | 日本経済の歩み①高度経済成長まで |
| 【第12回】 | 日本経済の歩み②オイルショック以降 |
| 【第13回】 | 貿易と国際収支 |
| 【第14回】 | 外国為替と国際経済 |
| 【第15回】 | 総括と試験 |